

1 学年 2 組 音楽学習指導案

1 単元名 「魔王」

2 本 時 平成30年11月12日(月) 第5校時 第一音楽室

3 本時の指導観

生徒は前時に曲の題名をふせ、原語で聞くことにより楽曲に興味を持っている。曲から感じ取ったものを自由に発表した。本時では歌詞の内容を理解させ、登場人物の歌い方の変化を感じ取らせる。そこで比較聴取させ、旋律(音の高さ)、強弱、音色(歌い方)の表現を知覚、感受させたい。

4 主 眼

登場人物の特徴を想起し、表現の魅力を聴き取ることができる。

5 ウェビング(イメージ)マップを活用して登場人物の歌の表現をまとめることができるようにする。

6 準 備 教科書 学習プリント

7 展 開

	学習活動・学習内容	具体的な支援	評価の観点(方法)
つ か む / さ ぐ る / 深 め る / ま と め る	1 前時の復習とめあてを確認する。	○登場人物を確認する。 ○日本語版の「魔王」を聴かせ、物語のイメージを想起させる。	
	めあて 表現のよさを聴き取って説明しよう		
	2 登場人物の歌い分け、ウェビングマップを活用して表現の工夫を聴き取る。	○父の歌い方について意見を発表させる。 ○子の音高から気持ちの変化を表していることを理解する。 ○3回の魔王を比較聴取し、旋律、強弱、音色(歌い方)の表現を知覚、感受させる。 ○語り手の最初と最後の比較をする。	音楽の特徴をゲーテの詩の登場人物に関連付けて聴き、主体的に鑑賞に取り組もうとしている。
	前奏・・・馬が走る音 父・・・低い音 子・・・だんだん高くなる 魔王・・・やわらかい感じの音色から強い感じの音色に変わる。		
	3 グループごとに表現の特徴を考え、朗読劇をする。	○登場人物の表現の変化を音楽的要素に注目して朗読させる。	曲想との関わりを理解し、楽曲の魅力を言葉で述べる (学習プリント)
4 DVDを視聴し、まとめる。	○演奏者の表現の豊かさに気づくことができるようにさせる。		
5 合唱の既習曲の練習をする。	○豊かな表現ができるようにさせる。		

【授業の実際】

○つかむ段階について（既習事項とのズレ・隔たりから内面に生じた問い・課題を設定する場面）

作曲者と物語の背景をつかみ発想を広げるために前司までの学習の内容の確認をする。日本語の歌詞の曲を鑑賞し、挿絵から登場人物の確認をする。挿絵にある内容について班で話し合いをして、どんな物語であるかをもう一度探りなおす。また、班で登場人物の役割分担をし、音読し合う。その人物になったように感情を入れて読むように促した。



○さぐる～深める段階について（思考ツールを活用して自己内対話をする場面）

登場人物が歌う場面を明確化するために、何回登場するかを数えて、場面ごとにどんな歌い方であったかを改めて考えた。また、それをプリントにまとめて発表しあった。

4人の登場人物の歌い方の変化について考えるため一人ずつ役割を決め、音読してみた。

班によっては、手や声色で表現しようと考え始めた。



○まとめる段階について（自分の言葉でまとめる場面）

4人の登場人物が巧みに歌い分けられていることを感じるために、まずプリントに工夫する点をまとめた。伴奏が馬の疾走する様子と風の音を表していることを理解するために、楽譜を見て考えた。特に子どもの音高や旋律の雰囲気の変化、転調などによって、物語の進行を巧みに演出していることに気づいた。各人物によって歌い方を変化させていたが、バリトンの声の魅力と豊かな表現力について感じ取ることができた。

【授業の考察】

ゲーテの詩のすばらしさとシューベルトの曲に対する想像力の豊かさ、バリトン歌手が一人で4人の役を歌い分ける表現力の高さを感じることができ、心豊かに音楽のおもしろさを理解できる内容であった。また、ピアノ伴奏のおもしろさを分かることができ、授業が終わるとすぐに前奏をピアノで弾いてみよとする生徒がいたほどだった。

それぞれの登場人物になりきって歌詞を読むことができたので楽しんで学習ができた。

【成果と課題】（授業整理会およびチェックシートから明らかになったこと）

（成果）☆ウェビングマップを活用して、朗読劇をすることができた。そうすることにより自分でどう表現でき登場人物の歌い方を感じ取ることができた。

場面により曲の流れや音の高さ、調性を確認して、朗読劇につなげる事ができた。最後にDVDを鑑賞して顔の表現も見て更に感受性を高めることができた。強弱の表現の豊かさや音域の広さなど、うたいての高度な歌唱テクニックを感じ取ることができた。

（課題）★曲の雰囲気やテンポ、表紙などについて他のシューベルトの作品と比較するまでできなかった。